

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会議名	第6回 山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日時	令和7年10月28日(火) 午後5時30分～午後7時30分	
会場	よませふれあいセンター 軽運動室	
出席・傍聴人数	出席 21人 / 欠席 8人	傍聴者 5人
会議内容	<p>【報告事項】</p> <p>(1)前回委員会の会議結果について (資料1) (2)まちづくりこども委員会の会議結果について (資料2)</p> <p>【会議事項】</p> <p>(1)先進地視察の結果について (2)統合学校の開校に向けたコンセプトについて</p> <p>＜テーマ＞最高の居場所をより具体的にイメージする『グループ討議』(資料3)</p> <p>4グループに分かれ、テーマ①では先進地視察の報告を聞いて思った点について意見を出し合い、グループ内で出た意見を発表した。テーマ②では前回の議論の続きで、「最高の居場所をより具体的にイメージする」というテーマで討議を実施した。1. 実現したい最高の空間を3つ決める(赤色)、2. その実現における問題点や課題(青色)、3. 課題を解決するためのアイデア(黄色)を付箋に書き模造紙に貼り、グループごとで意見をまとめた。グループごとに張り出した模造紙を見ながら、議論の内容の共有を図った。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月16日(日)学校づくりにかかるシンポジウムについて 	
決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> 第7回学校づくり準備委員会 11月27日(木)17:30～山ノ内町文化センター 	
会議概要及び質問・意見等	<p>【グループ討議まとめ】</p> <p>テーマ①：先進地視察を振り返る</p> <p>○さくほっこ(佐久穂町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物の再利用や、費用をかけない運営に感心した。 児童館(5時まで)と児童クラブ(5時以降、保護者迎え)が一体的に活動できる点が、活動の幅を広げられると感じた。 施設は一つだが、各活動が独立している印象がある。イメージとの相違や学校の延長のように感じた。また、さくほっこは学校に隣接し、徒歩5分の好立地だが、山ノ内町での展開は立地的に難しく課題がある。 <p>○上田市立北小学校(上田市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師が楽しそうに活動し、子どもが真剣に関わる姿が印象的であった。 教師と講師の区別がつかないほど馴染んだ風景だった。 クラブ活動時間が90分であり、講師側にとってやりやすい時間を感じた。 <p>○共通の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や学校内外の活動をつなぐコーディネーターが必要である。 地域の方が関わるクラブ活動が、プレゼンで決まる仕組みは楽しそうだ。 子どもが「選ぶ楽しさ」を得られるような活動の継続ができればよいと思う。 	

会議概要及び 質問・意見等	<p>テーマ②：最高の居場所をより具体的にイメージする</p> <p>1. 主な提案された最高の空間（赤の付箋）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験・ラボ的な専門分野を学べる教室。 ・交流スペース（フリーに使える広い空間、階段など）。 ・パーソナルスペース（個人のリラックス、集中、一人になれる空間）。 ・ラウンジ（カフェ・売店のような飲食もできる空間）。 ・動物が飼える施設。 ・中庭。 ・地域交流室。 ・多機能図書館。 <p>2. 主な課題・問題点（青の付箋）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地の確保や維持管理、管理する人材の確保。 ・パーソナルスペースにおける安全面（見守り、カメラ、入退室管理など）。 ・地域交流におけるゾーニングの課題。 ・動物飼育をした際の責任者、臭い、掃除などの問題。 ・専任スタッフや財源。 <p>3. 主な解決アイデア（黄色の付箋）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の力、スポンサー、企業の協力を得る。 ・ラウンジを役場の人にも利用してもらい、日常的に使ってもらう。 ・生き物スペースの掃除を生徒の交代制で行う。 ・中庭について、「こうしなさい」という細かいルールを設定せず、子どもの発想力・想像力を高める場とする。 <p>○グループワーク総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な壁よりも、「固定化された学校のイメージ」が問題であり、空間の概念を変える。 ・子どもが主体的に学ぶには、パーソナルスペースや地域とつながるような多様な空間が必要。 ・安全を追求しすぎて施設を「つくり込みすぎ」と、かえって子どもの危険回避能力や主体的な成長の機会を奪ってしまうので、施設をつくりこみすぎないという視点を持つことが必要である。 ・プレイパークのような「危険な場所」の方が、けがは少ないという状況もあるので、未完成でチャレンジできる空間も大事である。 ・最新の設備やモノ（市販品）を与えるよりも、地元にあるものや子どもと大人が一緒に「つくり出す」シンプルな空間こそが、子どもの創造性を育み、質素であっても教育の価値をよく考えることが大事である。 ・あるものを生かしてそこから何かをつくり出す意識をもち、施設をつくり込みすぎることで子どものクリエイティブ性を摘まないように考えるべきである。
------------------	---